

2024/11/4(月)に開催された「なきじんまつり in 進修館」には、これまで進修館が交流してきた様々な方々に来場いただきました。今帰仁村や象設計集団、宮代町民俗舞踊連盟、8町会連合会などをご紹介してきましたが、それ以外のみなさまについて、その一部をご紹介します。



【有限会社 大城産業 (茨城県古河市)】

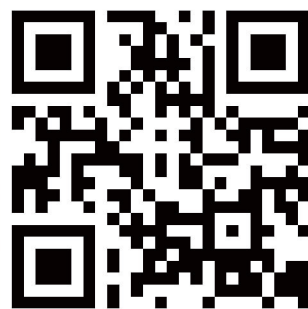
茨城県古河市の金属リサイクルの会社である有限会社大城産業。会長の大城勝さんは今帰仁村出身です。進修館が今帰仁村と交流を始めて間もないころ、古河市内に「今帰仁城」という沖縄料理の店があるのに気付き、訪れたところ、そこは大城会長が沖縄県や今帰仁村との交流の場所として経営していることを知りました。ま

た大城会長は、今回公演を行った「北山の風」のサポーターをしていらっしゃることから、「なきじんまつり in 進修館」開催にあたっては、今帰仁村との橋渡しや広報他、多大なお力添えをいただきました。そのおかげもあり、当日は関東近郊にお住いの沖縄県や今帰仁村出身の方々にご来場いただきました。

【大学セミナーハウス (東京都八王子市)】

世界的な建築家である「ル・コルビュジエ」の教えを受けた吉阪隆正が設計を担当し、1965年に開館した宿泊施設付きのセミナー施設です。象設計集団メンバーの樋口裕康さんや富田玲子さんも関わっていたと伺い、進修館でも何度か訪問し交流をしています。多摩丘陵の広大な自

然のなかに、地面に突き刺さるかのような本館のほか、個性的な建築が多数散在しています。管理運営する公益財団法人大学セミナーハウスの方とは、建物の維持管理やその魅力などについて、常々情報交換をしています。



【L'AUTRE MAISON 西ノ洞 (群馬県館林市)】

コンサートやライブ、オリジナルウエディングなども行われるカジュアルなフレンチレストランです。以前から「館林に進修館と雰囲気似たお店があった」と耳にしていたのですが、実際に訪れてオーナーの方とお話ししてみると、建物の設計はTeamZooとして象設計集団と共

に沖縄県名護市庁舎などの設計を手掛けているアトリエ・モビル、家具は進修館と同じ坂本和正氏によるものでした。こうしたご縁で交流させていただきながら、建物や家具を大切にしながらその魅力を活かしている様子などを学ばせていただいています。



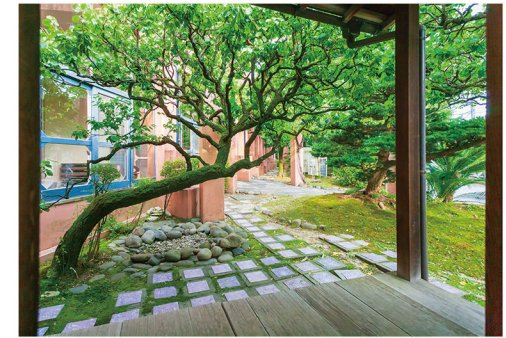
館林にある「西ノ洞」には進修館を感じます。家具も同じ坂本和正氏です。ぜひランチに行ってみてください！

「なきじんまつり in 進修館」には、公演に出演していただいた「北山の風」や「いまじん太鼓」メンバーのご家族やご親戚の方も多く来場されていました。こうしてふりかえると、本当に多くの方に支えられていたことを実感するとともに、この催しは進修館のつながりが生み出したものだったと感じます。あらためて、みなさまありがとうございました。

このコーナーでは、進修館の建設時に宮代町役場職員として関わった田沼繁雄さんに、当時のエピソードなどを伺います。

敷地内にたくさんのお木が植えられている進修館。これは、象設計集団が進修館を設計した際、宮代町の農家の屋敷林のような植栽に囲まれた建築にしたからです。このため、柿やカリン、ザクロ等、実のなる木も多く、季節を通して楽しませてくれます。進修館の植栽について田沼さんに伺ったところ、「茶室の周りの植栽を気にかけたことがあるかい？」と逆に問いかけられ

てしまいました。「茶室の周りには松竹梅が植えられているんだよ。関わった職人さんが粋な人だったのかもしれないですね。」とのこと。庁舎間道路に面したところには竹、そして松、紅梅白梅が植えられています。梅の木の近くには、雨が降ると現れる名物(?)「進修館滝」がしつらえられています。松竹梅と滝を眺めながらのお茶席、なんとも風流ですね。



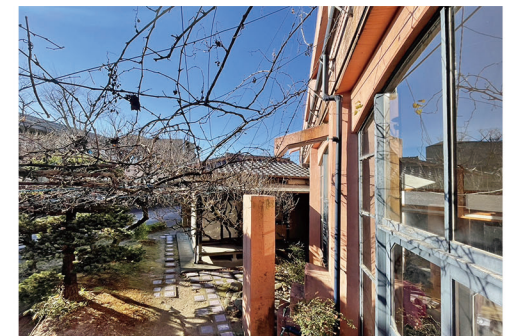
茶室の縁側から見た風景。ここからは立派な松の木が見渡せます。(この写真は7月頃のものです)



茶室は進修館のコンクリート躯体に寄り添うように作られています。入口は館内なので部屋は建物の外になっていて不思議な感覚になります。

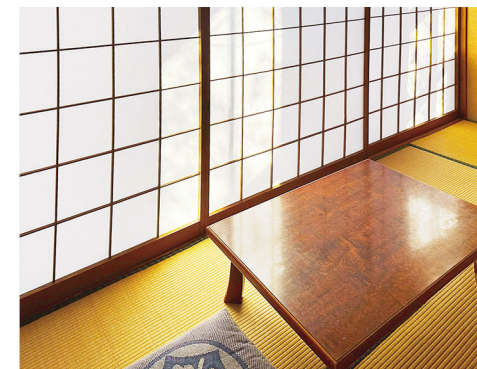


茶室の周りの竹の隣には梅も植えられています。また宮代町の花「ハクモクレン」もあり、四季の移ろいを楽しむことができます。



進修館名物(?)、雨の日に見える滝。雨が降ると、屋上の雨水が集まって流れ落ちる様は壮観です。

このコーナーは、進修館でアルバイトしている日本工業大学の学生(地元は福島県)が、町外から宮代町に越してきて感じた、進修館の魅力について語るコーナーです。



窓と部屋の間に一枚の障子戸を挟むと、間にできた空間の空気が断熱材の役割をはたして部屋がとても暖かく保てるのです！



和室と障子をはさんで隣接する託児室には南向きの大きな窓があり、たくさんの日が入ります。そのおかげで和室はとっても暖かいです。

みなさん、こんにちは！日本工業大学建築学科1年の浦山です。段々と寒くなってきたこの町ですがみなさんはいかがお過ごしでしょうか。僕はこの町で初めて迎える冬にドキドキしています。というのも僕は福島県出身で、生まれてからずっと福島で暮らしてきました。地元では寒さが本格的になるのは、お正月が終わったちょうどこれ

からの季節だったのです。お正月と言えば、この前実家に帰ってきました。僕の実家はかなり古い日本家屋で、屋内は和室造り。断熱性も機密性もまるでないような家(笑)ですが、親戚みんなが集まって楽しく過ごした家の中は、雪に包まれていたにもかかわらずとても暖かく感じられました。

ということで今回、僕がみなさんにお伝えする進修館の魅力の場所は「和室」です。進修館の和室は、広さが16畳とかなり大きめで、和室ならではの雰囲気と畳独特の香りが広がっています。ところで、和室に敷かれている畳ですが、実は畳というのはとても断熱性に優れているそうです。一般的なフローリングの床と比べ、畳の床は3倍以上の断熱効果があるとのこと。床に座った時の柔らかさや手触りなど、フローリングでは感じない“味”もありますよね。他にも光を和らげてくれる障子戸や、ふかふかな座布団など、和室だからこその作りだせる魅力がたくさんあると思います！

今回は進修館の和室について“外”から魅力を伝えさせていただきました。もし、ご自宅に和室が無かったり、一家みんなが宮代町で集まるのであれば、ぜひ進修館の和室を使ってみて下さい！